

牛舎に遮熱塗料1日乳量0・5キロ増 千葉県

2020/09/17 日本農業新聞

千葉県は、乳用牛の牛舎屋根に日本産業標準規格(JIS)認定の遮熱塗料を塗ったところ、塗らなかった前年に比べ、夏場の乳量が1日1頭当たり平均0・5キロ上がったという試験結果をまとめた。県では2020年度、施工費の3分の1を助成し、遮熱塗料の普及を進めている。

千葉県は19年度に県単独のモデル事業として、7戸の酪農家にJIS規格認証の遮熱塗料を利用してもらった。セラミックの微粒子が配合されている水性塗料で、酪農の牛舎では、中国地方などで実績がある。

屋根の温度は塗装前より下がり、日中の牛舎内温度も低下。乳量の落ち込みが防げることを実証した。未施行の屋根の温度が50度の時、塗装屋根は35~37度と15度ほど低かった。断熱ではなく熱の吸収自体を防ぐ塗料で屋根の温度を低く保つ。

県平均の7、8月の1日1頭当たり平均乳量は27・7キロと前年と変わらなかったが、7戸の平均は前年の29・6キロから30・1キロに伸びた。経産牛50頭規模に換算すると、7~9月の3カ月間で20万~30万円增收するとの試算を示す。

4~6月の乳量と比べた7~8月の乳量低下率は、前年の2・6%に比べ、2・1%に縮小。春から夏にかけての生乳生産量の落ち込みが抑えられ、県は「年間を通して安定した生産が期待できる」とまとめている。

モデル事業の結果を受け県は今年度、遮熱塗料の普及事業を新たに組んだ。経産牛50頭以下で乳量が把握できる牛群検定参加農家が対象。増頭が難しく、1頭当たりの乳量を増やすことで生産量を上げようという中小規模の生産者を想定する。
